

2017年度CSR全社活動実績

●従来取組 ◆レベルアップ取組 ★新規取組

	重点実施事項	キーワード	達成方策	達成状況	課題	評価	
社会貢献・事業運営	1. お客様のエコ志向に対応する商品、技術開発・提供	社会課題追求	社会課題追求(省エネ、インフラ、自動運転)、顧客ニーズ(軽量化、生産性向上等)へのフロントローディング参画と企業存在価値の向上	号試対応中	工程能力(品質安定性)の確認	○	
		社会課題追求	◆次期MIRAI向け高圧水素用ステンレス鋼開発推進 ★MIセンサを活用した自動運転用磁気レーンマーカーシステムの要素技術開発	実証実験(北海道、沖縄他)で期待どおりの性能を発揮	エンジニアリングサンプル(ES)設計		
		高付加価値商品開発	◆高強度板ばね用鋼の高強度仕様への展開拡大のため、脱炭影響明確化 ◆マグファイン適用拡大のため小型EVモータ設計・開発 ●客先メリットを創出するネットシェイブ素材材実現への中空温鍛試作の推進	耐久評価実施中 高回転モーター設計・試作実施 →43%小型・高効率化 試作プレス上げ →工程設計・試作推進	強度への脱炭の影響見極め 新設計ギヤ付モータの試作評価 深穴部の張付き、同心度対策		
		知名度向上	★高機能金属展への出展(春・秋)による当社知名度向上と商談機会創出	トヨタサプライヤーズセンター展示会開催→来場者968名	技術プレゼンへの顧客誘導		
	2. 環境調和型モノづくり改革と資源リサイクルでの貢献	リサイクル拡大	資源リサイクル+αの付加価値を持った製品開発と商品化、リサイクル技術確立によるゼロエミッション推進	17/12月ホットラン Ni源テスト購入(11月)と試験投入(1月)、評価実施中 17/3月から受入れ継続中(10t/月)	品質DR4合格、操業体制安定 現場との協力体制構築 特に無し(安定的に使用中)	△	
		ゼロエミッション推進	◆リサイクル技術の確立(社内、社外リサイクル推進) ◆次世代スラグ処理技術(設備)検討、設計	直接埋立:CC-TD耐火物リサイクル実施完了 間接埋立:刈谷中和汚泥目処付完了 工数不足から現時点未着手	残る間接埋立物(知多清掃汚泥)のリサイクル方法確立 建設スタッフ人員強化、検討実施		
	3. 環境・社会貢献に繋がる地域活動の展開	情報発信力	多様で効果的な顧客・地域への活動、情報発信力強化による企業認知度向上、従業員帰属意識の高揚	アイチセイコのCMを多面媒体で活用 計画どおりビジターセンター'18/3月竣工	効果的なCMによる知名度向上 本館・工場スルーの工場見学	○	
		社会・地域貢献	★アイチらしさを前面に打ち出した社会貢献の拡充(鉄の教室の市外開催) ★地域との連携を深める自社行事の実施(地域交流イベント) ◆社員へのボランティア意識の浸透(ワンコイン募金の活用) ★中新田緑地の基本構想策定	市外小学校12校+名古屋1校で鉄の教室開催 当社行事への招待 階層別教育での募集推進の効果もあり1割増 中新田森づくり中期整備案策定完了	多大な工数の確保 地域住民との良好な関係継続 ワンコイン募金の知名度向上 西知多道路干渉確認		
	4. グローバル化への対応	収益基盤強化	海外拠点経営基盤強化、本社支援効果定着と収益力向上・収益管理力強化、コミュニケーション基盤強化	◆年計目標達成による拠点立地国への貢献と連結収益力強化 ◆グローバルミーティングでの抽出課題への対策立案・計画的推進 ●機能・役割に従ったマザー活動の計画的な推進と支援効果定着	鍛カンパニー子会社営業利益 実績:9.7億円/年(計画:3.9億円/年) スマートカンパニー子会社営業利益 実績:0.6億円/年(計画:0.8億円/年) 実習生・研修生受入、技術人材交流等による人材育成強化 マンスリーレポートのフォーマット化と活用による情報共有と活動の定着 鍛カンパニー:問題点把握と解決アクションの迅速化推進 スマートカンパニー:AMC支援体制構築を協業で推進中(経営・生技・品質・保全)	子会社自律経営強化と適切な本社支援 品質対策の客先承認 親工場による子会社状況適切把握と早期アクションでの課題解決 エスカレーションルールの徹底と本社・子会社連携強化 ・親工場による子会社状況適切把握と早期アクションでの課題解決 ・マザー工場支援(安全・品質・長時間故障対応)強化と着実な実行 現地管理状況の把握のしくみ化	○
		グローバル化推進	★グローバルサプライチェーン見直し・拡充によるBAP構築 ◆グローバルミーティング刷新によるコミュニケーション強化、海外動機付け	BAP計画どおり推進中、ナックル・クランクBAP確立 中国での磁石安定供給体制構築 「第1回アイチグループKIZUNAの会」開催(18/5月)	海外拠点生産全品番に対するBAP対象品への方策検討 商流・工程スルーでの業務把握と課題確認 Aichi Way浸透への仕掛け(テーマセッション、AichiWayAward等)		
5. 連結経営力強化	連結基盤底上げ	連結戦略企画立案、収益基盤強化に向けたマザー機能の発揮、本社・子会社間コミュニケーション強化	◆各社アイチG役割・期待の明確化と将来構想提案、新たなシナジー創出 ◆カンパニー制移行による事業推進の牽引力強化、一体での事業活動促進 ●機能・役割に従ったマザー活動(機能支援)の計画的な推進 ●「実務者情報共有会」:フレーム化による定期開催、課題吸上げ・対策推進	国内子会社8社との トップ懇談会で子会社中計に対する意見交換実施 国内外子会社営業利益実績:24.7億円/年(計画:22.1億円/年) 子会社中計推進への各カンパニーとの連携強化で活動推進中 第4回開催(9月)→子会社共通課題に対する対策を議論	新ビジネス構想企画の充実、人脈を活用した展開・拡大 ビジネス構想の具体化と計画 策定・実行 弱点機能強化への役割明確化 実務レベルでの機能課題への連携強化とコミュニケーション充実	△	
	ガバナンス強化	★カンパニー制での子会社ガバナンスの仕組み構築、重大問題の早期対策 ◆取締役会での安全・品質定例議題化による安全意識徹底・風土醸成	子会社管理規程見直し(重要報告案件の追加)と規程の周知・遵守徹底活動推進 取締役会での定例議題化は定着→不祥事:0件、災害:7件	エスカレーションルールの浸透、遵守に向けた仕掛け検討 災害・交通事故が継続発生 →本社主管機能部門との連携強化			
リスクマネジメント・コンプライアンス	6. 関連取引先含めたCSR方針の浸透と徹底	グループ取組強化	グループ社員一人ひとりの真のCSR意識・行動強化、CSR浸透に向けた対話・コミュニケーション機会創出	◆オールアイチで実践できるCSR活動の企画立案・実施(オールアイチ目玉活動) ◆海外子会社のコンプラ監査で見えた弱点支援(現場作業員教育ツール) ●構内事業者を中心とした仕入先へのCSR意識再徹底活動の展開	中新田森づくりイベント開催 海外子会社4拠点でのATSG(オールトヨタセキュリティガイドライン)遵守率向上へ現地支援 仕入先への重点コンプライアンス指導を実施	80周年事業化 拠点事情に合わせた支援 仕入先のCSR意識醸成	○
	7. 天災、外部環境変化等で自社で防ぐことのできないリスク対応	防災対応・感度	ハード・ソフト両面での防災機能・感度強化、非常時に迅速・的確に対応できる備えの強化と推進	◆新本館の防災機能整備と全社対策本部機能の充実 ★防災観点からの老朽化建屋・設備の更新 ●社員の防災意識再徹底:防災情報定期配信等、感度向上活動強化 ◆真に役立つ防災訓練の実施と体得(避難、安否確認、本部立上げ)	模擬訓練強化と本部機能重点確認→人員点呼早期化に課題 全保安詰所の配電確認完了→機能強化へ建替え検討中 階層別研修での防災教育実施 新本館建設に合わせ全社防災訓練プログラムを充実し実施	TV会議・人員点呼のシステム化 新保安センター建設 全社員への意識向上・浸透 人員点呼迅速化・参加率向上	○
	8. 自社制御可能なリスク対応	ステップアッププラン	ステップアッププラン:1.8事故を教訓としたリスク対応仕組みの強化、ガバナンス・企業価値向上への課題対応強化	★ステップアッププラン骨太タスク4本柱の活動推進 ★1.8を忘れないための反省の部屋・学ぶ部屋の開設	活動状況の全社会議体でのフォロー強化により計画的に推進中 「伝真館」教育センター構想策定、着工	効果確認と残課題の抽出 円滑な立上げと啓蒙の強化	△
	リスク管理・対応力	★1.8を反映した初動対応マニュアル整備・メディアトレーニング実施 ◆各部署・子会社のリスクマップ作成とリスク低減方策(PDCAしくみ)	メディアトレーニング・危機管理マニュアル企画案作成完了 リスクマップ作成完了→低減方策の展開方法を検討中	不祥事発生時のメディア対応力向上 リスク低減策推進			
	コンプライアンス	●役員から基幹職・一般従業員までのコンプライアンス意識改革の勉強会 ★機密漏えい防止に真に繋がる機密管理施策の実施(図面データ等) ◆カンパニー制を考慮した最適なガバナンス向上策の実施(裁決権限等)	全役員への勉強会・CSR講演会等実施で意識改革実践中 退職者等の機密管理仕組化完了 全社会議:役割明確化と会議数・時間削減 →カンパニーへの権限委譲強化	一般従業員向け教育強化 機密管理施策の実効性監査 ガバナンスの実効性向上			
人材育成・企業風土	9. 仕事の質を高める人材育成とグローバルな事業展開に対応した人材の育成	風土・意識改革	共通の価値観をベースとした人材育成、働き方・強い職場づくりによるマネジメント変革、多様な働き方を支える仕組み・環境整備	★事技職の働き方改革:長時間労働は正・有休取得促進、「専門性制度導入」 ◆人材育成制度改定:技能職教育体系の抜本的見直し ★強い現場づくり「職場力アンケート」展開、工場組織(含:管理監督者役割)見直し	退社時間の見える化、業務指示内容の明確化(ツール活用) 技能力教育インストラクター育成(6名)、昇格前選抜研修 「現場力アンケート(17/5月実施)」結果を踏まえた向上策の実施	定点観測と課題潰し込み 昇格前研修の充実 課題抽出力強化と方策見える化	○
		職場環境整備	◆ダイバーシティの推進:女性活躍推進のための施策展開「フォーラム・在宅勤務等」 ◆福利厚生施策の展開「工場福利厚生施設更新、新厚生センター構想策定」	女性社員のキャリア形成プログラム実行、在宅勤務トライアル実施 新厚生センター建設構想策定完了、工場内施設改修(風呂、トイレ)実施	女性基幹職: +3名への採用 福利厚生制度充実と社員満足度向上		
	10. 安全・快適な職場づくり	安全意識・人材	安全・安心の再構築に向けた、ハード・ソフト両面での「安全対策・安全意識」強化と施策の計画的な推進	◆1.8を風化させない「伝真館」教育センターの企画推進 ◆安全道場気付き訓練での管理監督者「2段以上」取得活動推進 ◆やりにくい作業、守りにくい作業の改善(ステップ1)推進	企画承認→計画どおり工事(既存会議室改修) 管理監督者2段以上取得率:71% やりにくい作業の改善を実施(計画93件→実績94件)	プロジェクトチームの活動強化 遠方工場への教育拡大 夏季工事を活用した計画的推進	○
	安全な場づくり	◆燃焼設備の安全技術標準作成と安全審査(DR)追加 ◆安全な場づくり:安全度評価とDランク設備の排除	DR見直し、安全技術標準(電気室)作成完了 人と車輛の分離IV予算取得完了	安全技術標準(電気室)作成 計画的な予算化と活動推進			